

## 神のみことば ヘブル 4:12-13

1. 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。(4:12)
  - a. ヘブル書は「神はむかし・・・いろいろな方法で語られました(1:1)」という記述で始まっているが、今度は神は御子を通して直接語られる、ということについて見てみよう。これは文字通りの意味では 2000 年前、肉体を持った神の御子イエスがユダヤの民に直接語られた、ということであり、霊的な意味ではイエスは今も聖書を通して私たちに語っておられる、ということである。
  - b. ヘブル書を読み進めていくと、著者が使っている旧約聖書からの引用はすべて書面に記されたものではなく、神がその民に語りかけておられる事例であることがわかる。
  - c. 聖書の中でも良く知られているこの聖句に先立って、ヘブルの教会、またすべての信者に対して「もし御声を聞かざらば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない」という警告があった。そして今私たちは神のみことばに直接向き合っている。
  - d. 神のみことばはいろいろな形をとって私たちに示されるが、最も一般的なのが聖書を通してのみことばである。神がなされたこと、おっしゃったことを聖霊が伝える時、それは私たちの状況に合わせて超自然的な視点や理解を与えてくれる。ただし、神のみことばというのは単に聖書研究によって調べるものでなく（もちろん聖書の学びはとても大切だが）、神が私たちとコミュニケーションを取られ、神の望まれていることを聞く、という生きて働く現実なのである。
  - e. 神のみことばは生きていていのちを与え、また力があり活発で、私たちが変化を遂げるきっかけになるものである。神のみことばなしでは生まれ変わることはできない。私たちはクリスチャンとしてそれぞれの生活の中に神のみことばを意識しながら生きていくことが必要だが、と同時にまだみことばを理解していない人たちにその解き明かしをしていくことも私たちに課せられている任務である。
  - f. 神のみことばは人類に対して使えるどんなものよりも鋭く、肉体的、霊的にも内なる思いや心の奥底にあるものまでも刺し通す。剣は霊的領域で使われる戦いというイメージとともに、いつの日か地上に下される裁きのイメージもある。
2. 造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。(4:13)
  - a. 神のみことばはいつの日か私たちすべてが責任を持つことになる神の伝達的手段である。かつてイスラエルの民は神のみことばに不従順だったため約束の地に入れなかった。
  - b. 神のみことばはまたイエス・キリストご自身のことでもある。イエスの目には何一つ隠れたものはない。私たちすべては地上の生涯を終える時、イエスに対して弁明をしなければならない。
  - c. 聖書の中でしばしば神のみことばと言われる良い知らせ(福音)は、イエスの前ですべてを話す時、それは罰を受ける恐れの中で行うのではなく、むしろ報酬を受けるためなのである。私たちが受けるべき罰はイエスが受けてくださったので私たちは神の怒りを恐れることなく、この世でイエスのために生きることによって得た天の宝を受け取り、イエスとともに永遠のいのちを楽しむことができる。